

かこさいがい まな 過去災害に学ぶ

～経験が無駄にしない～



私たちの加茂小校区（コミュニティ範囲と同じ）。

過去には阪神淡路大震災、寺畑前川・最明寺川の氾濫による被害がありました。

《加茂小校区の特徴・概要》

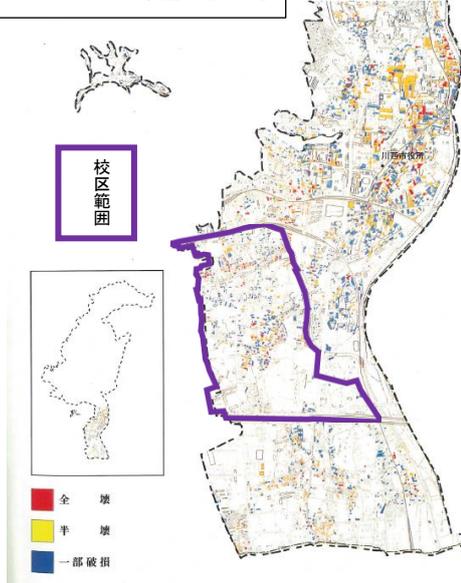
校区範囲は加茂1～6丁目・南花屋敷1～4丁目。川西市の中でも加茂小コミのある南部地域は比較的平坦な平野部であるが、伊丹洪積台地の一部となっており台地の上は標高40m前後、大阪梅田方面まで望むことができる。崖・急傾斜地を挟んで下側は標高20m程度（校区内に5か所の土砂災害警戒区域あり）。猪名川の支流である最明寺川（天井川）と寺畑前川が台地に沿って直角にカーブしている。JR宝塚線も同じように宝塚方面から尼崎へ向けて南北にカーブしている部分にあたる。校区南境には中国縦貫道・国道176号バイパスが東西に走り、伊丹空港へも程近く飛行機騒音の影響がある土地柄である。早生桃やいちじくの産地であり校区内には田畑が多く残る部分と住宅街となっている。一部工場が点在する。自然の崖を利用した弥生時代の環濠集落の加茂遺跡がある。



阪神淡路大震災

平成7年1月17日午前5時46分、淡路島北部を震源とするマグニチュード7.3、最大震度7を記録した阪神淡路大震災（死者・行方不明者6,400人以上・家屋全半壊約25万棟）は川西市でも大きな被害（死者4名・負傷者551名・家屋全半壊3,282棟）をもたらし、当コミュニティ内でも様々な被害が発生した。家屋被害は川西市南部に集中、ガス漏れによる避難勧告が出され、断水・停電・道路損壊、各電鉄の全面運休などライフラインに大きな被害がでた。旧加茂小学校は避難所となり、川西南中学校第2グラウンドには仮設住宅が建設された。

川西市南部の家屋被害状況



南部処理センター煙突（加茂6丁目・1月20日）



南花屋敷4丁目（1月30日）



最明寺大橋付近（南花屋敷3・4丁目1月17日）



南花屋敷1丁目（1月17日）



水道配水管（加茂3号橋1月17日）



傾いた電柱（南花屋敷1丁目1月17日）

震災に立ち向かう あたたかい心の絆



17日 午前3時46分
震度の地震が生じました。
午後一時、加茂小学校が避難場所として指定され、避難開始となりました。避難場所へ移動する際、PTAと連絡を取りながら避難しました。避難場所へ移動する際、PTAと連絡を取りながら避難しました。避難場所へ移動する際、PTAと連絡を取りながら避難しました。

「加茂小学校が指定避難所に」



川西市加茂小学校PTA
発行所/渡辺雅夫
編集/広瀬隆

平成6年度スローガン

伸ばそう個性
広げよう思いやり

18日
校長先生、教頭先生は、地震発生後すぐ家を出て学校の避難場所へ避難されました。避難場所へ移動する際、PTAと連絡を取りながら避難しました。避難場所へ移動する際、PTAと連絡を取りながら避難しました。

「その時、学校・PTAは子供達の安全を第一に考えて」

19日
午後一時、加茂小学校が避難場所として指定され、避難開始となりました。避難場所へ移動する際、PTAと連絡を取りながら避難しました。避難場所へ移動する際、PTAと連絡を取りながら避難しました。

20日
避難場所へ移動する際、PTAと連絡を取りながら避難しました。避難場所へ移動する際、PTAと連絡を取りながら避難しました。避難場所へ移動する際、PTAと連絡を取りながら避難しました。

21日
避難場所へ移動する際、PTAと連絡を取りながら避難しました。避難場所へ移動する際、PTAと連絡を取りながら避難しました。避難場所へ移動する際、PTAと連絡を取りながら避難しました。

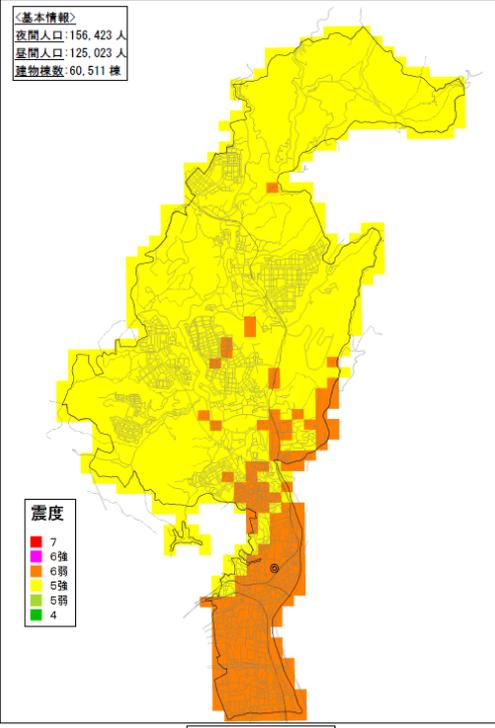
川西市立加茂小学校創立30周年記念誌(平成7年発行)より

「多くの皆さんがボランティア活動で支援して下さいました!!」



いつ来るかわからない 南海トラフ地震

川西市の予想震度



2021年1月1日時点で、今後30年の間にM9クラスの南海トラフ巨大地震が起こる可能性は70~80%程度。川西市南部地域は震度6弱の強い揺れに見舞われる可能性がある。

平成26年の兵庫県の試算によると県内の被害は全壊建物約3万8,500棟、死者約2万9,000人。市内では全壊建物約390棟、死者約24人、避難者数約1,000人と想定されている(季節時間帯により異なる)。

左図のように南部のほう揺れが強く人口も密集していることから、被害は南部に集中し校区内では市内の約三分の一程度の被害が想定される。

建物被害・道路損壊・断水・停電・ガス停止・通信網の停止・土砂災害等物的被害ライフラインへの打撃、死者・負傷者…様々なことにどう対応していくのか。我がこととして考える必要がある。

いつ来るかわからないその時のために何か一つでも「今」から始めよう。

水害

校区内を流れる最明寺川・寺畑前川は過去に洪水による浸水被害がありました。

猪名川・最明寺川

猪名川の支流である最明寺川・最明寺川の支流である寺畑前川はともに本流の猪名川の影響を大きく受ける。猪名川は上流・山間部は川幅が狭く急流で、中流は川が蛇行しているため度々洪水が起こり暴れ川といわれていた。昭和 13 年 7 月の「阪神大水害」をきっかけに河川の改修などが進められ、昭和 57 年には一庫ダムが完成。今も改修は続けられ大きな被害は出にくくなっている。

昭和 28 年台風 13 号、昭和 35 年台風 16 号、昭和 42 年 7 月豪雨、昭和 58 年台風 10 号などは特に大きな出水で、川西市内・加茂小校区内ともに大きな被害があった。



昭和 58 年 10 月広報かわにし臨時号



決壊箇所修繕
左奥に住友電工社宅

昭和 42 年 7 月 9 日台風 7 号くずれの前線により 270 mm の雨が降る記録的豪雨となった。降り続く雨で水位が上がり午後 7 時に避難命令、午後 9 時最明寺川堤防が 300m にわたって決壊。南花屋敷 4 丁目を中心に大きな家屋被害があった。川底掘削工事や堤防補強工事が行われ、以降最明寺川は溢れていない。



自衛隊が災害派遣として
堤防の修繕工事に出動



現在の最明寺川

出典：写真が語る一猪名川今むかし NPO 法人川西再発見・流域ネット猪名川

参考：国土交通省 HP・猪名川河川事務所 HP

内水氾濫にもご注意！

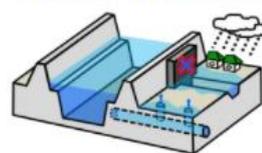
近年のゲリラ豪雨などで雨水の排水能力が追い付かず浸水するタイプの内水氾濫も起こっている。家周りの溝の排水なども確認を。

氾濫型の内水氾濫



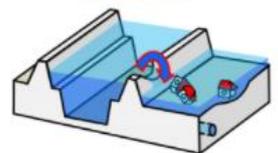
- ✓ 短時間強雨等により雨水の排水能力が追いつかず、発生する浸水。
- ✓ 河川周辺地域とは異なる場所でも発生する。

湛水型の内水氾濫



- ✓ 河川周辺の雨水が河川の水位が高くなったため排水できずに発生。
- ✓ 発生地域は堤防の高い河川の周辺に限定される。

外水氾濫



- ✓ 河川の水位が上昇し、堤防を越えたり破堤するなどして堤防から水があふれ出す。

気象庁 HP より



平常時の寺畑前川

寺畑前川の近年の浸水被害

発生日	起因	被害		
		床上浸水	床下浸水	合計
S58. 9.28	台風10号	1	42	43
H 1. 8.30	大雨	道路冠水		
H 3. 6.13	大雨	道路冠水、庭浸水：1		
H 4.12.8	大雨	道路冠水		
H 9. 7.13	大雨	12	31	43
H 9. 8. 7	集中豪雨	54	167	221
H11. 6.30	梅雨	道路冠水		
H12.11. 2	集中豪雨	道路冠水		

平成9年7月13日



寺畑前川は普段は水位 30 cm程度で穏やかに流れる小さな川だが、以前は大雨が降るとたびたび洪水被害が発生していた。中でも平成9年8月の集中豪雨では221戸が床上・床下浸水するという大きな被害となった。

平成12年、学識経験者や水利組合、地域住民、行政関係者等による「寺畑前川川づくり懇話会」が設立。10年に1回程度の洪水を安全に流すことを目標に洪水対策が進められ、現在すべての工事は完了し大きな浸水・道路冠水等は発生していない。

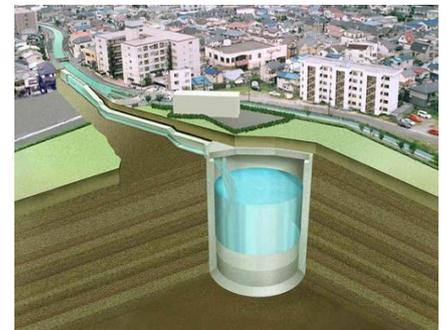
対策

- ①下流の井堰を改築し、河床を切り下げ、段差を解消。
- ②川底を約70cm切り下げて、河川の断面を拡大。
- ③調節池と横越流堰を設け、洪水を一時的に貯留させる。

寺畑前川調整池

寺畑前川調整池 鳥瞰パース

平成22年完成。洪水対策として東洋食品短期大学のグラウンド地下に巨大なケーソン（貯留量19,400 m³ 25mプール約65個分相当）が埋められている。大雨時、三支川合流部のすぐ、左岸側ある横越流堰から地下水路を通して調節池に水を貯留させ、雨のピークが過ぎた後にポンプで排水する。



平成26年8月豪雨の際最大容量19,400 m³を貯留し水位を約60cm低下させた。

地域に長く住まれている方のお話
「前川は大雨が降るとすぐあふれるという記憶があるから、対策してもらったといっても大雨が降るとドキドキする」

80代の方から

「雲雀丘の駅に行くのに、昔は大雨が降ったら最明寺川の向こうはみんな池みたいになってしまって、仕方ないからスカートを持ち上げてザブザブ歩いていってましたね」。当時は最明寺川の北側は阪急の線路まですべて麦畑で所々にヒバリがいてさえずっていたのだとか（自治会名の由来）。

出典：宝塚土木事務所発行 MY TOWN 伊丹・宝塚・川西・猪名川 2006年 vol.5

参考：国土交通省 HP・兵庫県 HP

いざ災害が起こった時どうするのか。

家族とはどうやって連絡を取るのか。どこを集合場所にするのか。

どこに避難すればいいのか。

※現在コロナ禍であり一番に開くのは小学校になるが、定員の問題や体育館が3階であることなど検討課題あり

まずは自助、そして共助、最後に公助といわれる。

備え方は人それぞれ違うもの。

いざというとき頼れる近所の人がいれば心強いと思いませんか？

普段からつながりのあるまちは災害にも強く安心なまち。